

研究課題名	自己免疫性胃炎の臨床像、内視鏡像、病理学的検討 ―後方視的多施設共同研究―
研究責任者名	病院 内視鏡診療科 教授 田中 信治
研究期間	2018年10月18日～2018年11月30日
対象者	2011年4月から2017年4月の間に、広島大学病院消化器・代謝診療科で自己免疫性胃炎と診断された15歳以上90歳未満の患者。
意義・目的	<p>自己免疫性胃炎(Autoimmune gastritis、以下 AIG)は Helicobacter pylori (以下 H.pylori) 感染性胃炎と並ぶ慢性胃炎の主要な原因のひとつです。本疾患は H. pylori 感染性胃炎との鑑別が必ずしも容易ではないため、その実態の解明はまだ十分でなく、この疾患の罹患率、その臨床像、内視鏡像、合併疾患、胃癌や胃神経内分泌腫瘍(NET)の発症危険度などが明確になっているとは言えません。さらに、自己免疫性胃炎の診断基準はいまだに確立されておらず、そのことがこの疾患の拾い上げの障害にもなっています。今回、AIG(自己免疫性胃炎)の臨床像、内視鏡像、組織学的所見の検討を行い、我が国における AIG の現状を把握し、疾患早期発見と適切な管理方針の策定に資することを目的としています。</p>
方法	<p>本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。カルテから使用する内容は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者背景：年齢、性別、使用薬剤など ・血液検査の結果：血清ガストリン値、抗胃壁細胞抗体、抗内因子抗体、ペプシノーゲン 1、2、1/2、比、RBC、Hb、Ht、MCV、白血球数、血小板数、ビタミン B12、葉酸、Fe、TSH、抗サイログロブリン抗体、抗 GAD 抗体、血糖値、HdA1C、各種自己抗体など、結果の判明している本疾患に関連する検査項目 ・内視鏡像：胃炎の状態を評価する各種指標 併発疾患 ・生検の結果(ある場合のみ) <p>(個人を特定可能な情報は解析に用いません)</p>
共同研究機関	<p>加古川中央市民病院など全国 14 施設 加古川中央市民病院にて研究責任者(寺尾秀一医師)が解析します。</p>
試料・情報の管理責任者	加古川中央市民病院 寺尾秀一
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5191

広島大学病院 消化器・代謝診療科 診療教授 伊藤 公訓

研究機関：広島大学